

文・写真 野沢 豊明(神立里山プロジェクト)

大阪市内から真東を見ると山の連なりが間近に見えます。その中の東大阪市と柏原市に挟まれた長さ約5kmの山腹が八尾市の高安山で東大阪に近い麓に神立地区があります。この山の反対側は信貴山を経て、奈良県でなだらかな耕作地となって下っています。高安山では里山として急峻な山腹を花卉栽培や僅かな平らな土地を耕作地として活用して来ましたが今は殆どその跡を残すのみです。私は虫好きの里山保全活動メンバーとして山によく入ります。メンバーには植物・野鳥に精通した方々がおられ、お互い情報を交換していますが共通して持つ高安山の自然・生物の多様性の印象は他地区の山野より豊かさが際立つというものです。植物ではランの類・稀少な草本達が林の奥に群落を形成し、昆虫では有名なウラナミジャノメが健在です。またカミキリムシ科の種は大変多いです。豊かさが話題になりますが、あまり手を掛けられない林内と陽当たりの良い草地がバランスよく混ざっていることで成立した豊かな植物相によるのかなと思っています。しかし近年の温暖化とゲリラ豪雨の影響が今後心配です。



登山道の整備



ミドリカミキリ

②2 南港野鳥園の干潟と林（大阪市住之江区）

文・写真 高田 博(NPO法人南港ウェットランドグループ)

南港野鳥園は、今年9月で開園40周年の日本で一番古い人工干潟です。埋立地を干潟にするという難工事は様々な段階を踏みながら、開園20年後の2003年に今の姿に近い干潟となりました。西池干潟を除き、淡水池であった北池と南池は、干潟化に適した地盤高まで沈下した年に海水導入工事（北池：1995年、南池：2003年）を行い、今や多様な海の生き物が生息する干潟となっています。海藻類、ゴカイ類、貝類、ヨコエビ類、カニ類（ハクセンシオマネキ、イソガニ類など）、ハゼ類といった干潟の生き物が、一見同じ環境に見える干潟で、自分達に適した場所で生活しています。多様な生き物が生息する野鳥園は、4～5月と8～10月に1万キロ前後を渡るシギ・チドリ類（開園から55種を記録）にとつて、大阪湾奥の貴重な中継地（餌場やねぐら）となっています。

園内の林は、アカテガニなど陸ガニが棲む貴重な環境で、夏の夜に、卵を抱えた雌が満潮の干潟に放仔のために歩いてきます。

今後、干潟表層の泥分や有機物の流出防止、海藻類の適度な繁茂、各池特有の生き物生息環境の保全と育成が課題です。



シギ・チドリ類観察会(5月)
北観察所でシギ・チドリ類(チュウシャクシギ・メダイチドリ・トウネンなど)を観察中。



干潟保全作業(7月)
干潟表層の泥を受け、泥の流出を防ぐため、カキを利用した堤防づくりを地元中高生の協力で実施。